

# 動物愛護センターにおける早期避妊去勢手術について

平成13年2月23日(金)

(平成12年度食品衛生監視員技術研修会 発表抄録：発表者 及川 悦子)

## 1 はじめに

当センターは、平成12年4月末に開設し、6月より平成13年1月まで譲渡会を計17回行い、子犬145頭、子ねこ34頭の譲渡をおこなった。

当センターでは、譲渡事業を円滑に行うため、また避妊去勢手術の普及啓発を行うことを目的として、国内でも例のない早期の避妊去勢手術（以下、不妊手術と呼ぶ）を実施し、譲渡を行っている。

早期不妊手術とは性成熟前の性腺除去のことであり、通常6～14週齢（42～98日齢）の子犬と子ねこで行うことが定義されている。〔1〕

センター内で手術を行う犬・ねこは健康で性格的にも問題がないものを県内の保健所より集め、譲渡対象とした。

今回、早期不妊手術を行った結果、問題なく事業を実施することができたのでその概要を報告する。

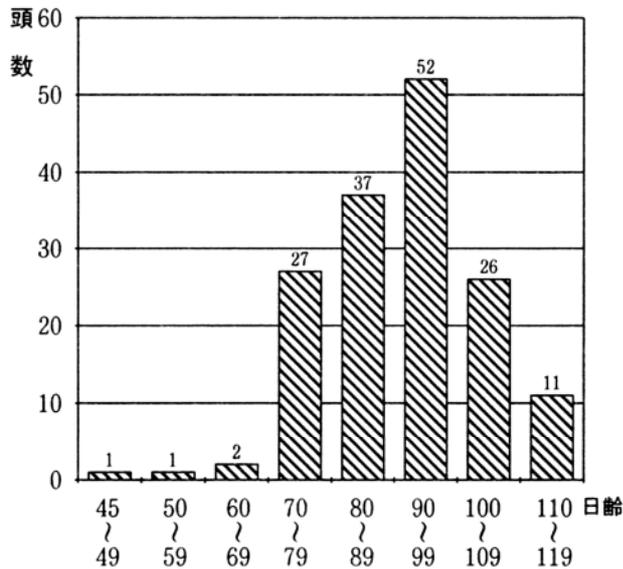


図1 手術時の日齢（犬）

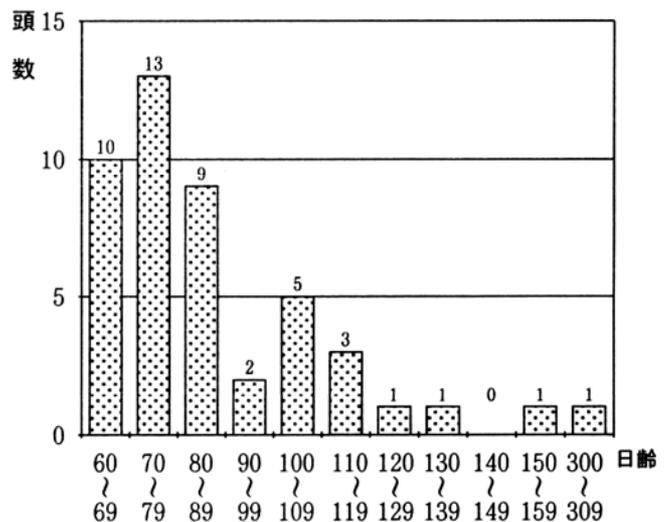


図2 手術時の日齢（ねこ）

## 2 方法及び手技

### (1) 対象動物

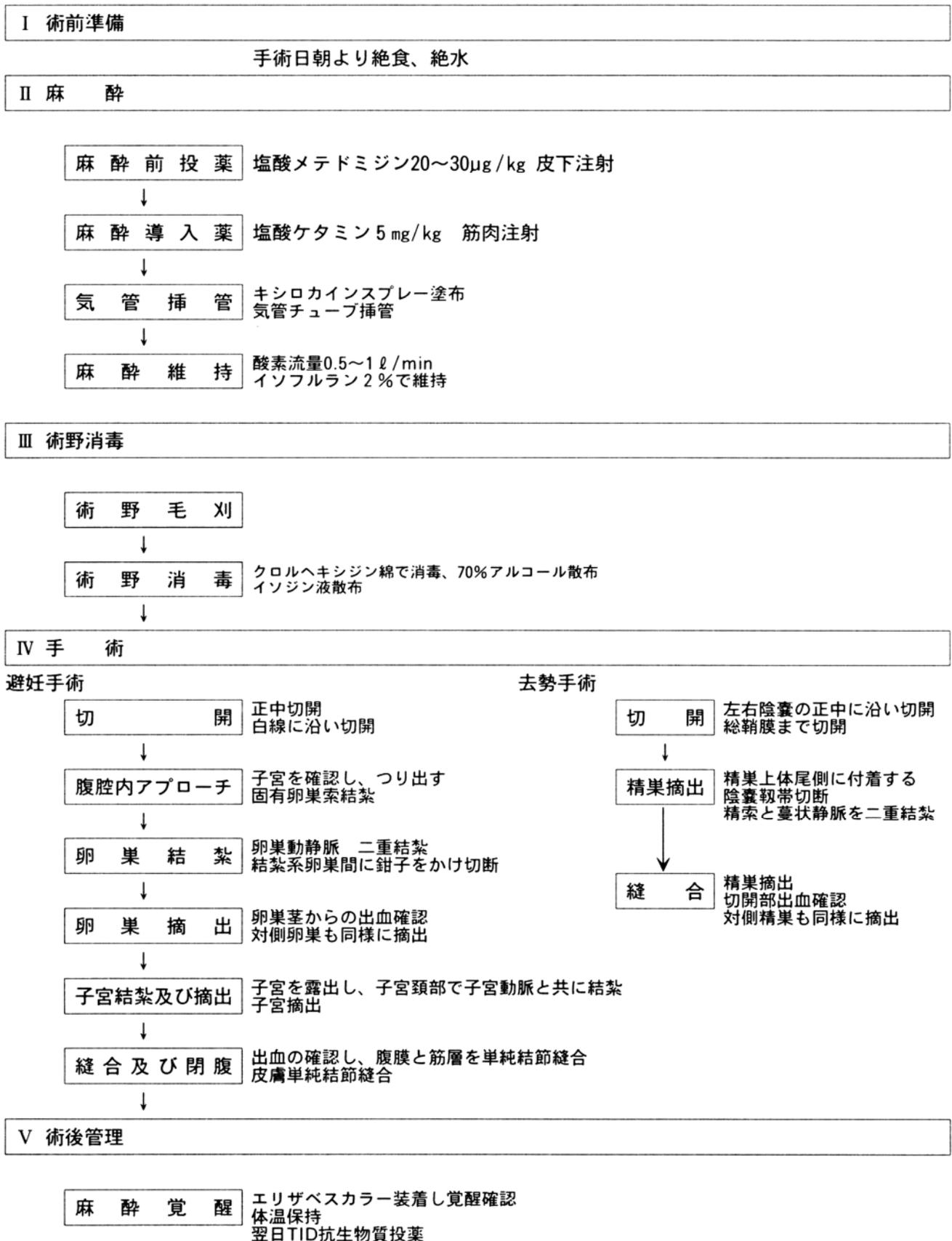
生後50日前後で搬入した犬・ねこでセンターにおいて1回以上のワクチン、駆虫が済み、搬入より14日以上経過して、保護室から移動したもの。健康診断で健康と認められたもの。

平成12年5月から平成13年1月末までに犬163頭（雄61頭・雌102頭）、ねこ46頭（雄26匹・雌20匹）について実施した。図1・図2に手術を実施した犬・ねこごとの日齢を示す。

## (2) 方法

表1のとおり。

表1 避妊去勢手術フローチャート



譲渡後の健康状態、体重については、しつけ教室やアンケートにより、追跡調査を行った。

### 3 結果

#### (1) 譲渡後の健康状態

表2のとおりである。譲渡後にアンケートを実施（平成13年1月）した。具合が悪いため、動物病院行ったものが、犬で7例・ねこで4例であった。そのなかで犬において、術創が化膿したためという例が1例あった。その他に、下痢、膀胱炎、痒がるなどがあった。

表2 動物病院に行った内訳

	犬〔件〕	ねこ〔件〕
狂犬病予防注射のため	38	—
駆虫のため	33	1
伝染病予防注射のため	12	2
健康診断のため	6	1
具合が悪いため	7	4
事故のため	2	1

#### (2) 体重増加について

犬において4例、ねこにおいて4例、搬入から譲渡までの日齢がほぼ同じものを選び出し、図3・4に示す。いずれにおいても右上がりを示している。

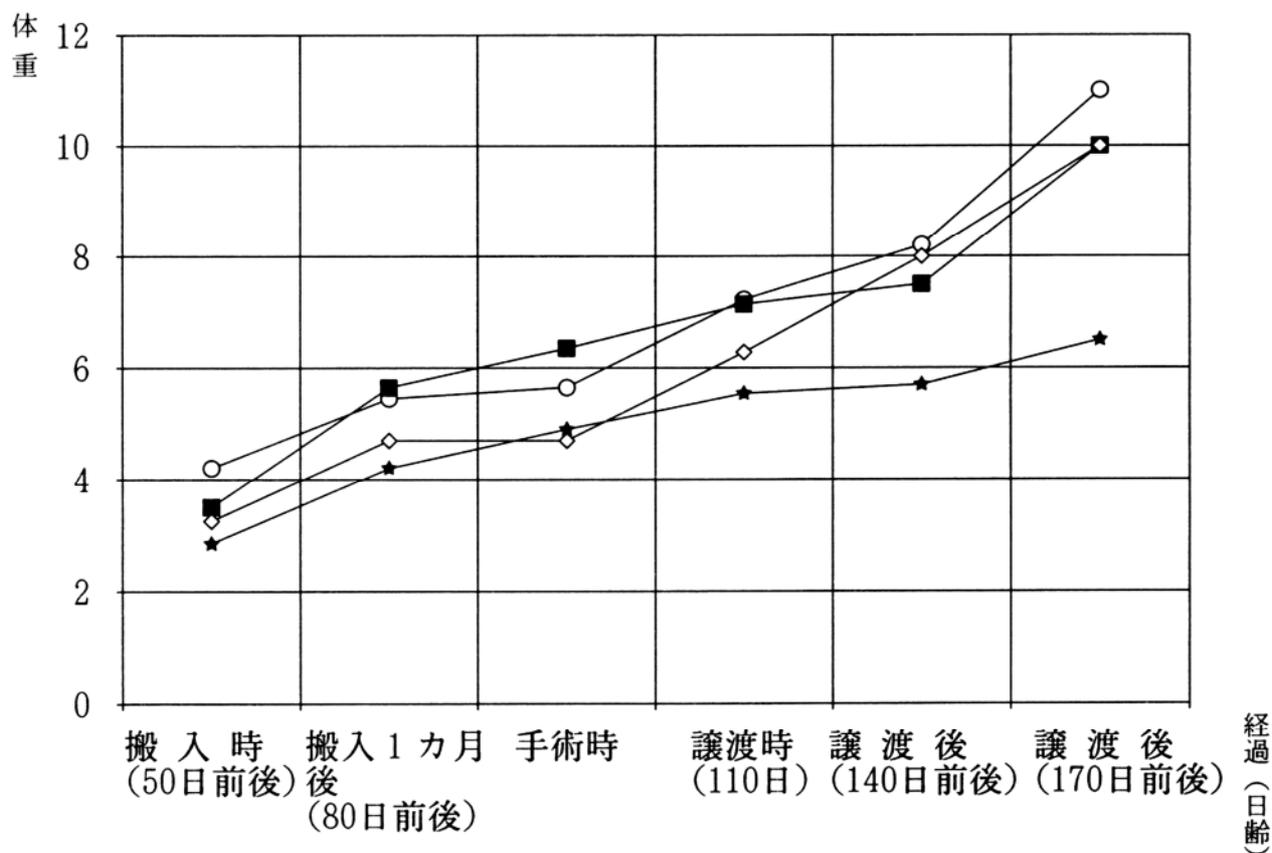


図3 犬における体重の変化

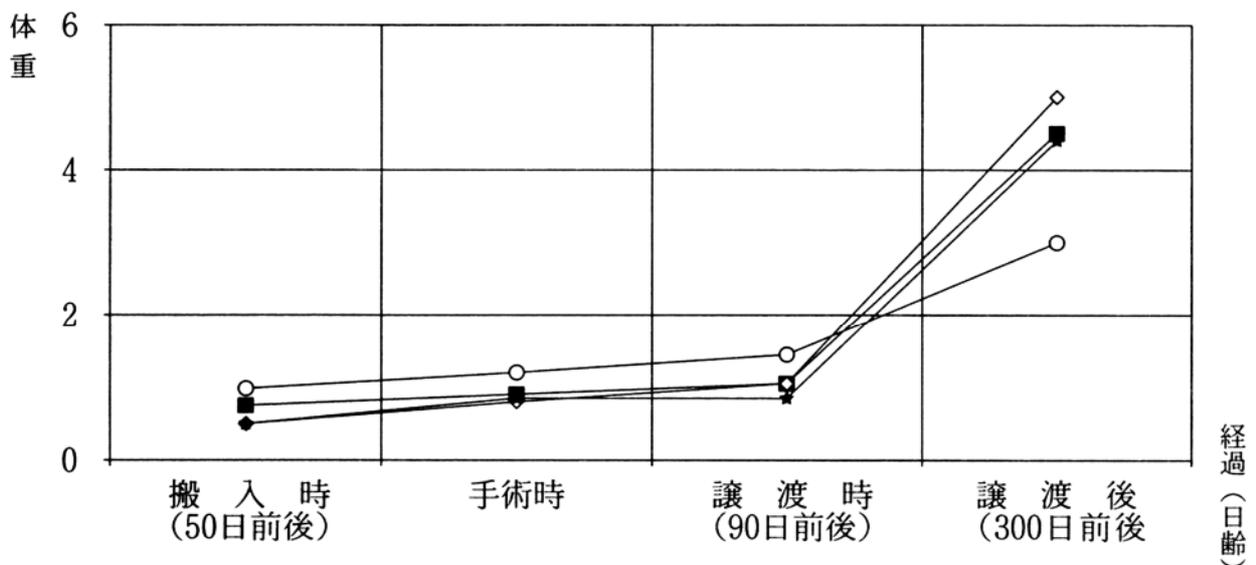


図4 ねこにおける体重増加

#### 4 考察

手術後の経過については、犬において、術創を舐めたことにより縫合糸がほどけ、出血し、再縫合の処置となった1例以外は全てにおいて、犬・ねこともに良好であった。

譲渡後のアンケートの結果によると、譲渡後動物病院にいったもののうち、具合が悪いものがあった。そのなかで、手術に関係するものでは犬において術創が化膿したためという例があった。その他に、下痢、膀胱炎、痒がるなどがあったが、これは直接的に早期不妊手術による影響とは考えられない。

また、譲渡後体重測定を行ったところ、いずれにおいても、体重が順調に増加し、今のところ発育に問題はない。

文健によると、早期不妊手術による影響について、骨の成長がわずかながら延長するという報告があるが、特に臨床症状はないといわれている [2]。また、雌ねこにおいて、骨盤部の尿道のサイズが小さくなるという報告もあるが、このことについても、特に臨床症状はないといわれている [3]。

今後、早期不妊手術を実施したことによる、成長過程における影響について、譲渡後の経過観察を継続していきたい。

#### 参考文献

- [1] Paul C.Gambardella : 犬とねこにおける早期の去勢と避妊手術 社団法人日本動物病院福祉協会 2000 年度年次大会. 2000 Nov 3:130 抄録
- [2] Salmer, Bloomberg, Scurggs, and Shille :Gonadectomy In Immature Dog:Effects on Skeletal, Phisical, and Behavioral Development JAVMA 1991 ; 198 : 1193
- [3] Stubbs, Bloomberg, Scurggs. Shille and Lane : Effects of Prepubertal Gonadectomy on Phisical and Behavioral Development in Cats. JAVMA 1996 ; 209 : 1864